

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月6日

【評価実施概要】

事業所番号	2371600939		
法人名	社会福祉法人 高坂福祉会		
事業所名	グループホーム 高坂苑		
所在地	名古屋市天白区高坂町196-1 (電 話) 052-805-1220		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年5月11日	評価確定日	平成19年7月6日

【情報提供票より】 (平成19年4月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 16年8月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~65,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷 金	有 (円) <u>無</u>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成19年4月25日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	5名	要介護2		1名	
要介護3	2名	要介護4		1名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 84.11歳	最低	66歳	最高	95歳
協力医療機関名	第一なるみ病院 安江内科クリニック 久方クリニック めぐみ歯科				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは特別養護老人ホームを併設しており、施設との連携がとられ、種々の催しに参加すると共に緊急時対応等、バックアップ体制が充実している。理念に基づき、日々入居者本位の支援に努めている。玄関脇やベランダには入居者が手入れしている花が植えられ、居間には手作りの鯉のぼりや菖蒲が飾られている。居室は入居者の馴染みの家具や家族の写真、仏壇も置かれ落ち着いた空間となっている。地域との交流を積極的に取り組んでおり、近隣の小、中学生の体験学習の受け入れを行っている。また、自治会に加入し敬老会に参加した。今後も地域に根ざしたホームを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を会議で話し合い、改善に取り組み介護に反映させている。緊急時の対応について、マニュアルが作成された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	職員全員で項目のチェックを行った。評価の意義を理解し今後の取り組みに活かしていく。月2回行われる会議で改めて話し合いを行う。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	現在までに3回行われた。会議を通して、自治会に加入した。老人会に入り敬老会バザーに参加した。盆踊りにも出席した。メンバーに学区消防団長や民生委員が加わっていて今後は、災害時協力体制の確保につなげたい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族は来苑時に入居者の個別ノートの閲覧が可能である。ホーム便りや近況報告を毎月送付。安心につながるよう常に電話で連絡をとっている。玄関に意見箱も設置されており、問題があればすぐ会議の席で検討している。重要事項説明書に苦情申し立て等複数明記されている。併設施設でのオンブズマン相談会への参加を管理者は検討している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入り回覧板が回ってくるようになった。散歩や外出時に職員から積極的に地域の方に明るく言葉をかけている。地域の行事予定も知ることができ、盆踊りやバザーにもでかけるようになった。隣人から花が届けられたり、手芸品が届くなど交流もできている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「住み慣れた地域で充実した環境のもと利用者がその有する能力に応じ自立したその人らしい生活が安心して送れるよう共に暮らしながら支えあう家、介護でありたい。」としており、法人と職員が話し合い作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者から学ぶという姿勢を大切にし、管理者は日頃介護の場面で声かけを行い、理念を意識づけ介護に活かすように話している。申し送りや会議で理念を唱和するようにしたいと考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、敬老会や盆踊り等に参加し、地区会館での行事、近隣学校等で行われる行事にも参加している。他の地域の方々からの呼びかけにも交流を深めるよう努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を会議で話し合い、介護に反映させている。今回の訪問調査の内容について、次の会議で話し合う計画をしている。今後も評価の結果は会議で話し合い、入居者一人ひとりのケアに反映できるよう取り組んでいきたいと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、現在までに3回実施しており、ホームの活動報告や今後の活動予定について話をしている。会議のメンバーには学区の消防団長や民生委員も参加しており、会議を通して意見交換する中で自治会への加入や老人会に参加することができた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の方にグループホームに見学に来てもらう機会を作りたいと考え、グループホームの通信を区役所の介護福祉課に持参し紹介している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の様子や状態を記した「近況報告」を毎月家族に送付している。また、ホーム便りは年4回発行されている。入居者の個別ノートを作成し、来苑時に家族が閲覧できるようにしている。必要に応じて、電話連絡も行っている。金銭管理は、1、2カ月に1回報告し捺印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情申し立て等複数明記されている。家族会はないが、家族アンケートには柔軟な対応をしてくれる、よく聞いてくれるとほぼ全員の意見結果がある。併設施設でのオンブズマン相談会への参加を管理者は検討している。意見箱に投書は年2回くらいだが、都度会議で話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2週間前までに内示している。折に触れ入居者に話し、理解してもらえるよう説明している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修の受講や職員の意欲に応じ研修に参加している。会議の席で、伝達講習が行われ全職員が参加している。パート職員にも研修の間口を広げるよう管理者は考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋南部グループホーム交流会（緑区、熱田区、天白区、南区、瑞穂区）に定期的に参加しており、他事業所のホーム長やホームスタッフと意見交換の場を持ち、質の向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設施設のデイサービスセンターからグループホームに入居した方もおり、馴染みの関係を大切にして、デイサービスセンターに遊びに行き麻雀を楽しみ、人間関係を継続している入居者もいる。今後おためし利用（体験入居）を検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事のできる人にはテーブル拭きや掃除、食材を切ること等参加してもらい、一緒に過ごす中で出てきた入居者の言葉を「つぶやきノート」に情報収集し介護に活かしている。人生の先輩から学ぶ姿勢をもち調理の基本など学ぶことも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の人格を尊重し希望や意向の把握に努めている。家族アンケートの結果からも職員を信頼していることがうかがえる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員それぞれの気付きを「気付きノート」に記し、会議の場で話し合っている。ノートの中には入居者本人や家族の意向、つぶやき等、日常介護の関わりの中で得た情報であり、介護計画の立案に活用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは2～3カ月毎に実施している。月1回行われるカンファレンスで毎日の記録や職員の意見を出し合っている。家族とは面会時に、意見や意向を聞いて目標を踏まえ介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行楽や外食等には併設施設より大型車を借用することができる。また、理容サービスを利用したりしている。入居者の個別の外出については、介護タクシーの利用も支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医に月2回の往診を受けている。本人や家族の希望により、他の医院へ通院する入居者もある。通院は、家族の付添いが困難な場合はホームの職員が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特別養護老人ホームを併設しており、ホームとしては重度化した場合や終末期への支援は行なっていない。特別養護老人ホームへ入所待ちの入居者もいる。入居者の日常の健康管理に努め、併設施設の看護師との協力体制が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけは全職員がしないことを徹底している。居室に入る時入居者に確認をとっている。記録類は事務所に保管し管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は9時までとゆっくり過ごす時間をとっている。犬の相手をしたりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週木曜日は昼食を入居者好みの献立をたて、食材を買いに出かけ、調理も入居者の気持ちを大切にして、教えてもらいながら行っている。月曜日はおやつ作りの日として好きなものを作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週2回は入浴をしている。毎日入浴希望者もあるができる限り対応している。今後検討していきたいと考えている。	○	今後検討していきたいと考えていることから、実現に向けた取り組みに期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食膳のテーブル拭き、花の手入れ、食材の買物、モップがけ等、入居者の好きなことや得意なことを中心に入居者のできることの支援をしている。毎週5名くらいが生花を行い居間や玄関、居室に生けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩はほぼ全員が出かけている。2～3回に分けて2～3名ずつゆっくりと職員と供に時間をかけ近くの公園等へ行っている。ボランティアと買物や外食に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前、窓からエスケープされたことがあり、門扉は施錠している。帰宅願望の強い入居者もある。職員が話を聞いて入居者の気持ちを変えたりする等対応している。現在、門扉の開放を検討している。	○	現在、開放することを検討しており今後に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回災害避難訓練を実施している。訓練の記録を確認した。災害時における備蓄品の準備もされている。	○	毎月訓練を実施している。今後は、地域への協力の呼びかけが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設と同じでカロリーも見直されている。水分摂取量の記録はないが職員が見守りしながら確認し1日1.5ℓ目標にいつでも飲めるお茶、ジュース、散歩後にスポーツ飲料等も準備している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は白色のカーテンを透った柔らかい雰囲気となっている。季節の鯉のぼりや菖蒲の花が手作りで飾られ、2階にはテーブル、椅子が置かれ吹き抜けの天井からの温もりもやわらかで休める空間になっている。このガラス張り天井は排煙口として使用可能である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口の暖簾は入居者の好みの色柄物を選んで買われたものが掛けられている。馴染みの家具や家族の写真、仏壇も置かれ、手作りの折紙作品も飾られていて落ち着き、休める場所となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。